

財務担当役員メッセージ



資本収益性の向上と適切な
資本配分により、さらなる企業価値の
向上を目指していきます。

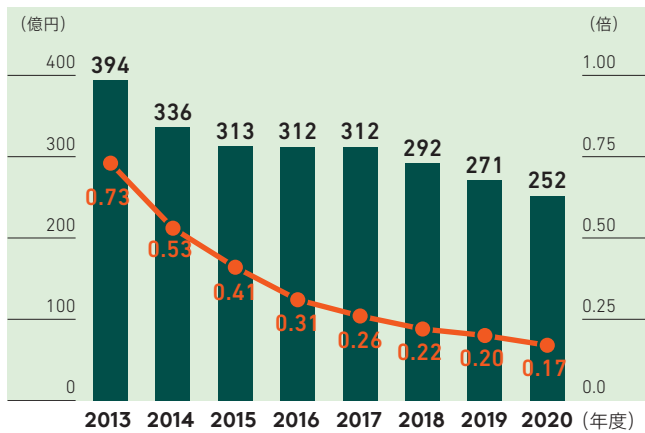
宮森 伸也
取締役常務執行役員

あいさつ

当社は、2020年2月に当社にとって初となる長期ビジョンである「安藤ハザマVISION2030」を策定しました。本ビジョンは、建設業界を取り巻く事業環境の変化に対応して、将来的な収益安定化を図るため、フロー（建設）とストック（建設外）のバランスの取れたポートフォリオの変革を目

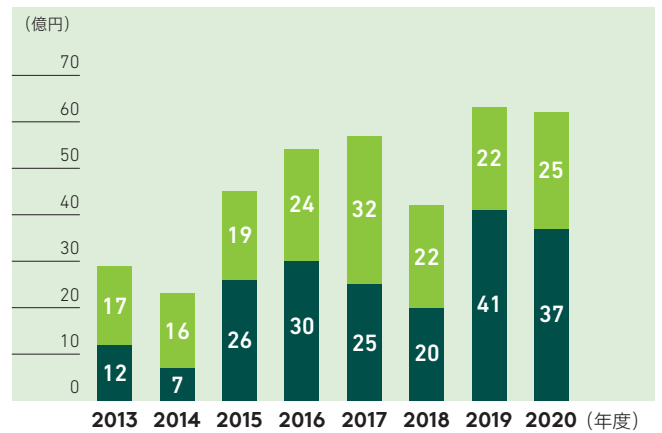
指すとともに、事業を通じて新たな価値を創造することを目的として策定されたものです。当社は、このビジョンに基づき、健全な財務体質の確保に努めると同時に、積極的なESG投資への取り組みとステークホルダーへの還元充実に努めていきます。

有利子負債・D/Eレシオの推移



■ 有利子負債 ● D/Eレシオ
※ 転換社債型新株予約権付社債を除いて算出

設備投資・研究開発費の推移



■ 設備投資 ■ 研究開発費
※ 設備投資は成長投資に含まない資本的支出を含む
※ 研究開発費は減価償却費等を除く

成長投資にあたっての考え方

当社は、「安藤ハザマVISION2030」において、本業である建設事業の強化と建設外事業におけるストックビジネスによる収益源確保に向けて、2030年までの10年間で1,000億円以上の投資を行う計画としています。長期ビジョンのファーストステップである現行の中期経営計画期間中では、「エネルギー分野」「不動産事業、インフラ運営事業等」「パートナー戦略投資」「イノベーション投資、技術開発投資等」の各分野で総額約250億円の投資を計画

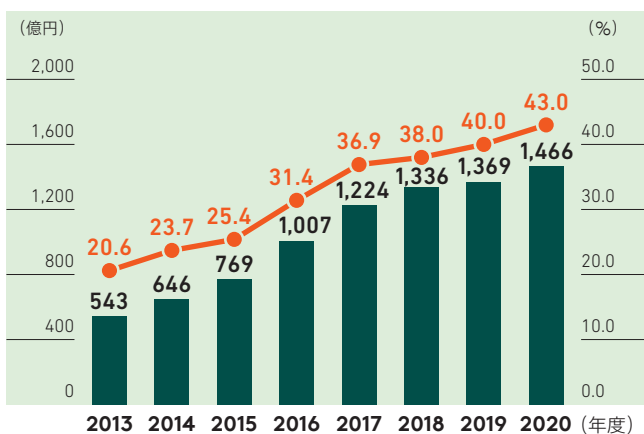
しています。脱炭素社会を目指す再生可能エネルギー事業への国内外での投資やDX戦略も視野に入れた技術開発投資も具体的に検討しています。一部の投資案件は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響もあり計画通りの進捗が図れていない案件もありますが、中長期的な視点で、投資リスクとリターンを十分に検証の上、投資を進めていきます。

株主還元・資本政策

当社は、2013年4月に間組と安藤建設が合併して安藤ハザマとして発足しましたが、合併初年度末(2014年3月期末)での連結純資産額は543億円、自己資本比率は20.6%でした。合併後、旧会社それぞれの強みを生かしシナジー効果を発揮して、堅調に業績を積み重ねた結果、2021年3月期末では、それぞれ1,466億円、43%まで財務基盤は充実してきています。このような状況下、当社は、株主還元方針として、合併時より企業価値の持続的な向上と将来の成長に向けた内部留保の充実を図りながら、株主に安定的な配当を実施することを基本方針としてきました。一方で、自己資本の充実も、当社の企業規模や将来

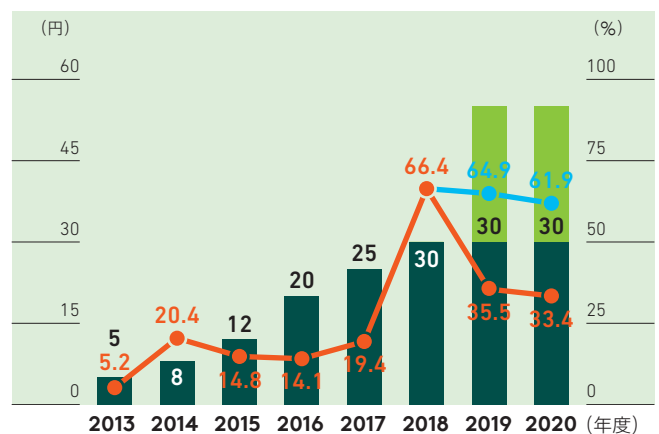
のリスクに対する備えなどから見ても一定の水準に達しつつあるとの判断から、2020年3月期および、2021年3月期に合計で総額150億円の自己株式の取得を決定しました。当社は株主還元を重要な経営課題と捉えており、現行の中期経営計画の最終年度の目標として総還元性向50%以上を目標として掲げ、中計初年度である2021年3月期はこの目標以上の株主還元を実現しました。当社はこれからも資本効率の向上や株主への一層の利益還元を念頭に置き、財務状況等を総合的に勘案して、株主還元施策を検討していきます。

純資産・自己資本比率の推移



■ 純資産 ● 自己資本比率
 ※自己資本(純資産-新株予約権-非支配株主持分)

年間配当金、配当性向および総還元性向の推移



■ 配当金 ■ 自己株式取得/株 ● 配当性向 ● 総還元性向